

# 活動最終年を迎える組織の事務作業について

# 活動最終年の組織が作成する書類

①地域資源保全管理構想（4月上旬提出）

※活動最終年度の5年目

②新しい活動計画書（6月上旬提出）

※活動を継続されない場合は前年度の8月までに、市にご相談ください。

# 必要な提出物について

種別	チェック欄	項目	様式番号	提出方法	備考
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	多面的機能支払交付金に係る地域資源保全管理構想の届出書	1-4	書類1部及び電子データ	活動最終年度を迎える組織が提出する必要があるもの。 ※最終年度の代表者名で作成
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域資源保全管理構想	1-4(別添)		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	活動範囲、農用地、対象施設の位置図・範囲図	-		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	多面的機能発揮促進事業に関する計画の認定の申請について	1-1	書類1部及び電子データ	新年度から活動期間を新たにする組織が提出する必要があるもの。 ※新年度の代表者名で作成。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	多面的機能発揮促進事業に関する計画	1-2		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	多面的機能支払交付金に係る活動計画書	1-3		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	多面的機能支払に係る活動計画書	1-3(別紙1)		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	規約	-		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	構成員一覧	(別紙構成員)		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農用地面積調書(一筆台帳) (字名・地番・地目(田)・地籍が記載されたもの)	-		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	認定対象区域図面(活動エリアがわかるもの)	-		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総会資料及び(議事録(写し))	-		

- ・ これまでの活動まとめ・振り返り
- ・ 将来に向けた課題の洗い出し



地域資源保全管理構想

- ・ 新たな活動スパンでの実施計画
- ・ 活動内容の決定



新しい活動計画書

# ①地域資源保全管理構想

・それぞれの地域で守ってきた農用地や水路、農道等の地域の資源を将来にわたってどのように引き継いでいけばよいのかを構想としてまとめたもの。

**※活動5年目を迎える組織は必ず作成する必要があります。**

地域資源の適切な保全管理のための推進活動

地域資源の適切な保全管理のための推進活動について、1)~4)を記入してください。

1) 保全管理の目標を①~⑥から選んでください。(複数選択可)

<input type="checkbox"/> ①中心経営体との役割分担による保全管理	<input type="checkbox"/> ④集落間連携や広域的活動による保全管理
<input type="radio"/> ②集落営農組織を基礎とした地域ぐるみの保全管理	<input type="checkbox"/> ⑤多様な地域資源管理の担い手による保全管理
<input type="checkbox"/> ③地域外の経営体との協力・役割分担による保全管理	<input type="checkbox"/> ⑥その他

2) 今後、地域で取り組んでいくべき保全管理の内容を①~⑤から1項目以上選んでください。

<input type="radio"/> ①農地の利用集積に伴う管理作業	<input type="checkbox"/> ④共同利用施設の保全管理
<input type="checkbox"/> ②高齢農家の農用地に係る管理作業	<input type="checkbox"/> ⑤その他
<input type="checkbox"/> ③不在村地主等の遊休農地に係る管理作業	

3) 2)で選んだ内容に取り組むため、今後進めていく活動の方向性を①~⑦から1項目以上選んでください。

<input type="checkbox"/> ①担い手の人材・機材の有効活用、連携強化	<input type="checkbox"/> ⑤不在村地主との連絡・調整体制の構築
<input type="checkbox"/> ②入り作等々の近隣の担い手との協力	<input type="checkbox"/> ⑥集落間の連携や広域的な活動
<input type="radio"/> ③地域住民、土地持ち非農家等を含めた体制づくり	<input type="checkbox"/> ⑦その他
<input type="checkbox"/> ④新たな保全管理の担い手の確保	

4) 2)で選んだ内容に取り組むため、毎年実践する活動を17~23から1項目以上選んでください。

<input type="radio"/> 17. 入り作農家や土地持ち非農家を含む農業者の検討会の開催	<input type="checkbox"/> 21. 地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査
<input type="checkbox"/> 18. 農業者に対する意向調査、農業者による現地調査	<input type="checkbox"/> 22. 有識者等による研修会、検討会の開催
<input type="checkbox"/> 19. 不在村地主との連絡体制の整備、調整等	<input type="checkbox"/> 23. その他
<input type="checkbox"/> 20. 集落外の住民・組織や地域住民との意見交換・ワークショップ・交流会の開催	

地域資源の適切な保全管理のための推進活動



※日々の活動を基に、集落で話し合いながら作成

〇〇地区地域資源保全管理構想  
( 年 月作成 )

1. 地域で保全管理していく農用地及び施設

(1) 農用地

田 a

畑 a

(農用地の範囲・位置は別紙のとおり)

(2) 水路、農道、ため池

水路 km (開水路 km、パイプライン km)

農道 km

ため池 箇所

(施設の範囲・位置は別紙のとおり)

(3) その他施設等

鳥獣害防護柵 箇所

(施設の範囲・位置は別紙のとおり)

2. 地域の共同活動で行う保全管理活動

(1) 農用地について行う活動

・遊休農地等の発生状況の把握	毎年〇回 ( 月 )
・遊休農地発生防止のための保全活動	毎年〇回 ( 月 )
・畦畔・農用地法面等の草刈	毎年〇回 ( 月 )
・異常気象時の見回り	洪水、台風、地震等の発生後
・応急措置	点検結果に応じて実施時期を決定

(活動の範囲は別紙のとおり)

(2) 水路、農道、ため池について行う活動

1) 水路

・水路の草刈	毎年〇回 ( 月 )
・水路の泥上げ	毎年〇回 ( 月 )
・施設の適正管理	毎年〇回 ( 月 )
・異常気象時の見回り	洪水、台風、地震等の発生後
・応急措置	点検結果に応じて実施時期を決定

(活動の範囲は別紙のとおり)

2) 農道

・路肩、法面の草刈	毎年〇回 ( 月 )
・側溝の泥上げ	毎年〇回 ( 月 )
・施設の適正管理	毎年〇回 ( 月 )

地域資源保全管理構想

※記入例については、活動の手引きを参考にしてください。

# 新しい活動計画書（6月上旬提出）

活動最終年度を迎え、その翌年度以降も活動を継続する組織は、新規組織と同様に事業計画書（活動計画書等）の作成が必要です。

※ゼロから作成する必要はなく、これまでと同じ部分は新しい様式に書き写してください。

※様式は市のHPからダウンロードできます。

## (2) 資源向上支払（共同）

1) 施設の軽微な補修、農村環境保全活動 ★実施する月に○を記入してください。

活動区分	活動項目	毎年度の実施時期															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
施設 の 軽 微 な 補 修	24 農用地の機能診断	○															
	25 水路の機能診断	○															
	26 農道の機能診断	○															
	27 ため池の機能診断	○															
	28 年度活動計画の策定	○															
	29 機能診断・補修技術等に関する研修	令和○年度に受講予定（活動期間内に1回以上受講）															
農 村 環 境 保 全 活 動	30 農用地の軽微な補修等	機能診断結果に応じて実施時期を決定															
	31 水路の軽微な補修等	機能診断結果に応じて実施時期を決定															
	32 農道の軽微な補修等	機能診断結果に応じて実施時期を決定															
	33 ため池の軽微な補修等	機能診断結果に応じて実施時期を決定															
農 村 環 境 保 全 計 画 策 定	34 生物多様性保全計画の策定		○														
	35 水質保全計画、農地保全計画の策定																
	36 景観形成計画、生活環境保全計画の策定																
	37 水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動計画の策定																
	38 資源循環計画の策定																
活動区分	活動項目	毎年度の実施時期															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
農 村 環 境 保 全 活 動	39 生物の生育状況の把握（生態系保全）							○									
	45 植栽等の景観形成活動（景観形成・生活環境保全）						○										
農 村 環 境 保 全 活 動	46 施設等の定期的な巡回点検・清掃（景観形成・生活環境保全）								○								
	47 その他（景観形成・生活環境保全）																
この線より上に行を挿入してください。																	
51 啓発・普及活動												○					

## 2) 多面的機能の増進を図る活動（任意の取組）★実施する月に○を記入してください。

活動区分	活動項目	毎年度の実施時期												備考		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
多 面 的 機 能 の 増 進 を 図 る 活 動	56 農村環境保全活動の幅広い展開									○						
	53 鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化										○					
この線より上に行を挿入してください。																
60 広報活動・農の関係人口の拡																○

※増進を図る活動を実施する場合は、活動項目を選択した上で、毎年度実施するとともに、広報活動を毎年度実施してください。  
ただし、農業地域類型区分の「中間農業地域」または「山間農業地域」、地域振興立法8法地域においては広報活動は必須ではありません。

56、農村環境保全活動の幅広い展開 を選択した場合、以下の太枠内も記入してください。

56、を選択した場合に選択⇒  農村環境保全活動を1テーマ追加  「高度な保全活動の実施」  
農村環境保全活動のテーマ  生態系保全  高度な保全活動の活動項目

1 「生態系保全」「水質保全」「景観形成・生活環境保全」「水田貯留機能増進・地下水かん養」「資源循環」から選択

59、都道府県、市町村が特に認める活動 を選択した場合、具体的な活動内容を記載してください。

## (3) 資源向上支払（長寿命化）

工事1件当たり200万円以上となることが明らかな場合は、様式第1～4号「長寿命化整備計画書」を作成し、添付してください。なお、1つの活動項目を分けて実施する場合は、それぞれを1件として考えます。  
※延べ数量の延長は小数点以下第2位まで記入してください。

施設区分	活動項目	活動内容	延べ数量 (単位はkmか)	年度計画				
				1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
水路	62 水路の更新等	第○号水路の更新	0.06 km	○	○	○		
水路	62 水路の更新等	土水路からコンクリート水路への更新	0.24 km			○	○	○
農用地	64 農道の更新等	水口の更新	4.00 箇所	○				
農道	64 農道の更新等	農道アスファルト舗装	0.10 km	○				
この線より上に行を挿入してください。								

☆直営施工の実施方針について  全て直営施工  一部直営施工  直営施工は実施しない

☆上記以外に農業の多面的機能の維持・発揮に必要な共同活動を実施する場合は、その活動内容を、この活動計画書に記載してください。（別紙でも可。）（実施要領第1の2の（4）又は第2の2の